

2013.11 No. 26



# 佐賀大学病院ニュース

## 患者・医師に選ばれる病院を目指して News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

### 地域に密着した、近未来の高度医療機能病院を目指して



▲南診療棟

本院は、①「近未来・高度医療への対応」、②「地域医療への貢献」、③「教育・研究機能の強化」、④「病院管理・運営の効率化」、⑤「地球環境への配慮」の五つの基本理念に基づき、病院再整備中です。地域に根差した患者本位の「最後の砦」として、より一層地域医療に貢献し、高度医療への対応を確実にするには、強固で安定した経営基盤の確立と総合的な医療環境の整備を行う必要があるため、平成29年度までの約5年余りの歳月を経て再整備を完了する予定です。



▲南診療棟屋上ヘリポート



▲救命救急センター救急車専用入口

この度、平成24年度から25年度にかけて、新営工事を行った「南診療棟」、「北病棟」及び「診療支援棟」が完成致しました。新築したそれぞれの建物の外壁は、当初のえんじ色から先進性を表す外観として濁手の白磁色調のタイルを採用し、今後の改修工事により順次変更していく予定です。「南診療棟」は、敷地外から正門を入って、最初に飛び込んでくる主要な建物であることから、太陽光発電により先進性を表現するとともに、水平ラインを強調し敷地に馴染む近代的なデザインとなつていきます。また、医療施設において極めて重要な機能的特性を持つ救命救急センター、集中治療部門、手術部門を配置することにより、高度な機能を持つ先進的な施設であると言えます。さらに、屋上にはヘリポートが設置されており、佐賀県ドクターヘリ事業の基地局として来年1月中旬には、本院の高度救命救急医療体制事業が開始される予定です。

「北病棟」の病室は、落ち着いた暖色系のクロスを採用しており、さわやかで温かく希望がふれ癒される環境となつていきます。また、南側の



▲正面玄関

一般多床室には、間仕切り家具や無料で使用できる冷蔵庫を設置し、患者さんへのサービス向上やプライバシーに配慮した環境を整備しました。また、最終形では病棟北側部分にスタツプエリアを拡充することにより、職場環境の改善を図ります。

第4ステージの外

来診療棟改修後には、現在の正面玄関を東側に移動し、院内画廊やチャットラウンジ等がある中央通路プロムナードから東西南北に位置する中央診療ゾーンや病棟ゾーンには片側に境界色を施し、ゾーニングの意識化と左右・南北の方向感を持てます。また、南側には全面ガラス張りのアトリウムを増築して、3階までの吹き抜けやエスカレーターを新設し、自然な光が射し込む明るく開放的な外来となります。

本年、年末年始にかけて、いよいよ次ステージに向け、病棟等の移転作業を行うこととなりました。患者さんの移送については、本年12月30日を予定しており、当日は、東西病棟から北病棟へ、中央診療棟等から南診療棟へ順次患者さんの移送を予定しています。新棟への移転においては、患者さん等の安全な移動に細心の注意を払うとともに、病院機能を保ちつつ、先進医療機器等の移設が伴うこととなります。より一層慎重な作業が求められるため、検討に検討を重ね準備を進めています。

再整備に向け出港後、航海に出て間もない「豪華客船Saga University Hospital号」は、最初の寄港地である「第1ステージ港」の岸壁に寄せたばかりであります。今後、第2・3ステージの東西病棟・中央診療棟改修、さらには第4ステージの外来診療棟改修までの長い航海が続きます。

本年末の病棟移転を経て、「第2ステージ港」に向け、出港することとなりますが、患者さん及び職員の方々には、これまで以上のご理解、ご協力をお願いいたします。



▲外来アトリウム

再整備統轄監  
内藤 浩幸

### 多数傷病者発生を想定した災害訓練を実施しました



平成25年度から国立大学附属病院災害対策相互訪問事業が立ち上がり、災害対策に関して大学病院間での相互訪問を通して国立大学附属病院全体の災害対策に関する能力の底上げや標準化を図り、外部の視点が入ることにより

等の感想が寄せられました。一方で新しい問題や未対応の課題が残されていることも明らかにになり、非常に実りの多い訓練となりました。前日からある程度の準備を行っていたにも関わらず大変な訓練でしたが、実際の災害発生時にはシナリオがなく、改めて訓練の重要性を痛感しました。

災害対策室長  
成澤 寛



よる防災意識の向上を目指すこととなりました。本院では、既に昨年から多数傷病者発生を想定した災害訓練を実施しており、本年も2段階での訓練を行いました。まずは、平成25年8月30日(金)にエマルゴ(災害訓練用セット)による机上訓練を行いました。実働訓練は、9月28日(土)、消防局の協力のもと、総勢250名(学内・院内参加者180名、学外参加者70名)が参加し、本院外来ロビー、総合外来付近を中心に実施しました。実働訓練の目的は、多数傷病者発生時における各種緊急活動の習熟および消防機関との連携の促進を図ることです。具体的には、平日午前9時頃、長崎自動車道金立SA付近で、高速バスと大型トラックが衝突、炎上し多数傷病者が発生、8名の重症者を含む28名の負傷者が本院へ搬送されるという想定で行いました。机上訓練時の課題となった院内の指揮調整系統および連絡方法の確立の検証を行い、併せて検査部、放射線部、手術部の受け入れ体制の確立、患者受け入れから入院または手術までの流れの確認を行いました。また今回は、福岡保健専門学校から37名の学生の派遣協力をいただきました。トラウマメイクを施した模擬患者者による迫真の演技は、参加者への災害対応の臨場感をうみ出し、本番さながらの訓練となりました。終了後の初回参加者からは「貴重な経験となった」、「昨年の経験者からは「前回の課題が改善している」



### 就任挨拶



臨床検査医学講座 教授 末岡榮三郎

平成25年8月1日付けで、医学部臨床検査医学講座の教授に就任いたしました。末岡榮三郎です。昭和59年、佐賀医科大学の1期生として卒業後は、血液内科医として臨床と研究に携わってきました。平成22年10月から本院の検査部長として検査部業務を担当させていただきました。大学の検査部の在り方を研究してきました。最近の医療技術の進歩は目覚ましく、臨床検査医学の分野にも最先端の工学、IT技術が応用されています。私の今後の活動目標の一つは、「いろいろな分野の先進技術の導入による、患者さんにやさしく省コストの検査体制を作る」ことにあります。もう一つの目標が「生体情報の有効活用のための組織作り」です。検査部門は患者さんの大切な検体を預かって検査を行っていますが、医学研究においては様々な臨床情報や検体の活用が必要となります。預かった検体から得られた情報を、「患者さんのために、患者さん個人に合った形で提供する」、そんな組織を作りたいと思っています。みなさんのご指導をいただきますのでよろしくお願いたします。

